

中教審大学分科会制度・教育部会、学士課程教育の在り方
に関する小委員会 (Dec. 3, 2007)

分野別にみた学士課程カリキュラム： 人文・社会系に注目して

吉田 文

(メディア教育開発センター)

アウトライン

1. 学士課程の目標
2. 学士課程カリキュラムの量的配分
3. 教養教育の必修内容
4. 4年間の構造化の度合い
5. 大綱化以降の変化の認識
6. カリキュラムの編成方針
7. 学際化の陥穽
8. 卒業後の進路
9. 課題

1. 学士課程の目標

	人文	社会	理工
主体的に判断・行動する力	53.3	52.1	52.7
批判的精神	48.6	56.0	46.1
論理的思考力	42.3	48.1	44.3
将来の進路に対する展望	42.2	46.3	49.7
課題探求能力	35.2	41.4	31.3
自国や世界の文化に対する理解	38.1	34.6	22.3

出典：吉田（2005）（以下、同様）

*「学士課程で身につけるべき」とする考え方が高い項目。

* 各種の能力を「学士課程全体で身につけるべき」とする考え方において、分野別の違いはない。

2. 学士課程カリキュラムの量的配分

	卒業	教養	専門	自由選択
人文系	126.3 (4.5)	32.1 (11.5)	72.0 (20.4)	13.6 (16.0)
社会系	126.8 (4.3)	31.8 (11.6)	75.1 (20.6)	10.6 (13.1)
理工系	126.6 (3.9)	30.1 (11.4)	78.7 (17.0)	6.3 (11.1)

出典: 吉田(2005)
(上段・・・単位数、下段・・・標準偏差)

- * 卒業単位数に分野別の違いはない。
- * 人文系は、専門がやや少ない。
- * 人文、社会系は自由選択が多い。
- * 科目区分における学部間の違いは、卒業単位よりも大きい。
- * 文系の学部間の違いは、理工系よりも大きい。

3. 教養教育の必修内容

	人文	社会	理工
英語	50.8	60.1	67.8
情報リテラシー	40.1	33.5	41.9
少人数ゼミ	37.0	39.6	22.0
大学への適応支援の科目	21.5	24.0	25.6
総合科目	11.5	7.5	13.8
専門教育の基礎科目	24.6	25.2	29.8

* 教養教育として必修化率が高い内容。

* 教養教育として必修化されている内容について、分野別の違いはほとんどない。

* 英語に関しては、人文系は「学科によって異なる」が多い。

4. 4年間の構造化の度合い

	人文	社会	理工
1年次で必修の専門教育科目がある	80.4	68.0	88.2
2年次で教養よりも専門の必修の方が多い	52.8	41.6	78.9
特定の学年で単位修得しないと進級できない科目がある	25.8	26.9	54.4
卒業論文・制作がある	73.1	32.7	87.1

- * 文系は専門の開始が遅い。
- * 文系は学年ごとの構造化が弱い。
- * とくに社会系は卒論がない学部が多い。

5. 大綱化以降の変化の認識

	人文	社会	理工
学生の科目選択の幅が拡大	86.8	79.4	72.2
教養教育に関する学生の履修の共通性が減少	40.2	36.4	31.5
専門教育が学際的になった	61.2	48.2	49.0
教養教育に占める補習や導入教育の比重が増加	23.0	31.1	47.0
大学院教育を視野に入れて学士課程カリキュラムを編成	27.7	23.9	54.3
科目区分の担当の違いによる教員間の差別が残存	19.5	19.5	33.3
教員間で授業内容について調整を図ることが多くなった	55.6	48.9	64.9

* 人文系は、学生の選択肢が拡大し、教養教育では履修の共通性が減少し、専門教育は学際的になっている。

* 理系は、補習や導入教育が増加しているが、大学院を視野に入れたカリキュラム編成を考えるようになった。

* 理系では、担当の違いによる教員間の差別が残っているものの、教員間で授業内容で調整を図るようにもなっている。

6. カリキュラムの編成方針

	人文	社会	理工
専門教育の内容を学際的に (専門教育の内容を高度化)	65.6	64.3	57.0
教養教育はテーマ別科目を多く (教養教育は3系列の科目を多く)	64.4	60.1	52.1
学生の学力水準に合わせてカリキュラム編成 (学部の要求水準を前提にして)	63.9	66.0	54.8
教養と専門教育との担当教員を分ける (どの教員も教養・専門科目を担当)	18.9	45.1	36.7

* 文系は、学際的に、学生の学力水準に合わせる。

* そのために、テーマ別科目を

* 理系は、教養と専門の担当の分化

7. 学際化の陥穽

	人文	社会	理工
学生の科目選択の幅を増大 (学生の必修を増加)	67.1 (59.0)	68.2 (54.4)	58.0 (54.3)
学生の学力水準に合わせてカリ キュラム編成 (学部の要求水準を前提にして)	72.2 (53.8)	69.6 (53.9)	62.9 (50.0)

*カリキュラムを学際化する方針をとっている学部は、学生の科目選択の幅を増大し、学生の学力水準に合わせてカリキュラム編成する傾向がある。

*とくに、文系でその傾向は強い。

*「科目選択の幅拡大」は、「学力水準に合わせてカリキュラム編成」と相関

*文系の学際化は、学力水準に合わせることに比重があるが、選択の幅は大きく、自由化している。

8. 卒業後の進路

	大学院等への進学者	就職者	専修学校・外国の学校等入学者	一時的な仕事に就いた者	左記以外の者	左記以外の者 (N)
人文	5.5	69.5	2.8	3.9	15.3	14,152
社会	3.8	74.8	1.9	2.1	14.5	30,923
理学	41.9	46.2	1.0	0.9	9.1	1,772
工学	32.3	60.0	0.8	0.5	5.6	5,372

出典：学校基本調査(2006)速報版

* 文系卒業者のうち、「左記以外の者」=進路未決定者?が多い

* 比率よりも、実数の多さ。

9. 課題

<文系のカリキュラム編成の特徴>

- * 学際化、自由化、多様化
- * 構造化が弱い

<学生の学力水準に合わせることで、上記の特徴との関係>

- * 積極的な対応か、or、対応不足か
- * 後者の可能性あり
- * 構造化の必要性